

タイトル：2025年度 教育セミナー（第21回）

日時：2025年9月18日（木）～21日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

井上未菜（上智大学グローバル・スタディーズ研究科博士前期課程1年）

他の受講生のテーマが知らされた時は、「中東☆イスラーム」と銘打たれたセミナーの間口の広さにやや驚いたが、間口が広く保たれていることは即ち、「中東」や「イスラーム」の境界の曖昧さを示しており、括れなさもひっくるめて捉えようとする姿勢の表れでもあるように感じられた。実際、発表を聞いてみると専門分野・地域以外の内容においても何かしらの共通点或いは疑問点が見いだせるものであり、皆で広く議論をする中で「中東☆イスラーム」の解像度が上がっていくのは面白かった。

しかし、そうした地域や歴史のつながりの中で自分はどこにピンを打とうとしているのか、そこは曖昧に見過ごされるものではなく、その意味は常に問われることになるとの理解も得た。そしてそれは図書館で文献と向き合うだけではなくて、自分とは異なるところにピンを打っている人たちとつながることでも見出していけるもののようなのである、というのが4日連続で様々な発表を聞き、他の受講生や教員と意見交換する中での気づきであった。なお研究発表が数日連続する場において頭を働かせ続けるには体力が必要、ということも同時に教訓として得たので、手始めに規則正しい生活を心掛けたい。

上記のとおり、セミナーを通じ得るものは多かったことを強調しつつ、2点意見したい。1点目は、最終日に多くの受講生が述べていたが、自己紹介はやはりあった方が良いと思料する。或いは、（スケジュール上の都合及びSlackがあまり活用されなかったことを踏まえると）配布される受講生一覧表がもう少し充実していると良いかと思う。質疑応答において、その人がどのような知見を有しており、如何なる関心を持って質問／コメントしているのか把握していることは、質問の意図を的確に把握することにつながり、議論がより深まるのではないか。

2点目は、これも最終日に述べたことであるが、講師セミナーにおいては研究内容についての講義が聞きたかったという点である。主催の先生方と講師の先生とで考慮された上での講義内容であり、院生として参考にならなかった訳では決してない。しかし、むしろ研究の内容について話していただく方が、中東・イスラームについての知識・理解を深められると同時に講師の着目点や発想を追うことができ一挙両得であると思われる。

最後に、AA研の先生方及び事務方の、後進を育てることへの熱意と、そのために酷暑の中で費やされた労力に感謝申し上げたい。